

第1回 CiNii Research に関する検討会議事要旨

日 時：2020年8月31日（月）15：00 ～ 17：00

場 所：オンライン会議

出席者：嶋田（筑波）、田口（東京）、菅原（一橋）、大向（東京）、田邊（物質・材料研究機構）、大波、小野、片岡（以上、NII）、阪口、大澤（以上、NII・事務局）

議事

1. 自己紹介（報告）
2. 検討会設置経緯説明（審議） （資料1）
3. 主査選出（審議）
4. 検討会の活動について（審議） （資料2）
5. 今後の進め方について（審議） （資料3）
6. 図書館総合展について（報告） （資料4）
7. その他

配布資料

委員名簿

- 資料1. CiNii Research に関する検討会について(案)
資料2-1. 検討会の活動について(案)
資料2-2. CiNii Research ポリシーについて
資料2-3. CiNii Research および CiNii シリーズの開発・運用スケジュール
資料3 今後のスケジュール（案）
資料4 図書館総合展について

議事要旨

1. 自己紹介（報告）
名簿の順に自己紹介を行った。
2. 検討会設置経緯説明（審議）
事務局より、資料1に基づき、報告があった。
3. 主査選出（審議）
小野委員より、主査の選出を行った。
小野委員からの推薦により、大向委員に主査をお願いすることになった。
4. 検討会の活動について（審議）
事務局より、資料2-1に基づき、検討会の活動（案）について説明があった。続いて、

大波委員より、資料 2-2、2-3 に基づき、CiNii Research のポリシー、及び、開発・運用スケジュールについて説明があった。

[主な論点]

- 資料 2-1 の課題数と比較して、会議が 3 回で足りるのか不安である。また、「(3) Knowledge Graph の構築について」「(4) Open Citation について」は具体的な内容が記載されているが、NII 内である程度検討が進められているのか。
 - 「(3) Knowledge Graph の構築について」の具体的な設計はこれから作り上げる想定である。(NII)
 - 「(4) Open Citation について」は、アイデアレベルの話である。日本の学協会誌の Citation をうまく拾う方法がないことを発端に課題としている。(NII)
 - ご指摘の通り、人数、回数的に厳しい面があるので、今年度は資料 2-1 の「(1) CiNii Research の在り方」、「(2) 既存 CiNii と CiNii Research との関係について」を中心に、ある程度 NII で案を作り、検討会でブラッシュアップしていければと考えている。「(3) Knowledge Graph の構築について」から「(7) 外部連携について」は、将来展望的な意味合いも含むので、次年度以降、委員の拡充も含め、議論していきたい。(NII)
- 11 月に試験公開を予定していると思うが、研究データ等のコンテンツの増加予定はあるのか。
 - 人社系の研究データなどもある程度整え、試験公開する予定である。(NII)
 - 当検討会委員の物質・材料研究 機構（以下、NIMS）の田邊委員とも連携の調整をさせていただいており、今後様々なドメイン、分野のデータを繋げていく予定である。(NII)
- 具体的なターゲットユーザーは誰になるのか。
 - 資料 2-2「新 CiNii Research ビジョン①」の「研究に携わる者（日本の研究者及び、大学の図書館員）」を想定している。既存 CiNii の検索対象となっていない英語論文も検索できるようにし、英語論文を中心に利用する研究者も CiNii Research では取り込んでいきたい。(NII)
 - 日本の研究者に限らず、日本の研究に関わる外国人研究者も含むということで理解した。
 - 補足すると、学生や一般市民も使えるようにするのが理想だが、第一のターゲットとして研究者と図書館員を定めた。さらに細かく言うと、CiNii Research の特徴は研究データを検索できる点であるため、研究者を 1 番に、また、多くの図書館員に既存 CiNii を利用いただいていると聞いており、今後既存 CiNii を CiNii Research に統合することを考えているため、2 番目に図書館員を考えている。(NII)
- 研究データについて、NII の公開基盤で公開されたものを CiNii Research で収集するという理解で問題ないか。

- まずは、公開基盤（WEKO）のデータを対象にする予定である。管理基盤の情報は公開情報ではないので、対象には入れていない。（NII）
- WEKO に海外のジャーナルに公開された研究データが登録されると、既存 CiNii にはない外国語の論文の情報も入ってくることになるのか。
 - 英語の論文や英語の説明がつく研究データも検索できるようにしていきたい。（NII）
- ディスカバリサービスとの差別化に関して、データソースのブラックボックスがないと良いという印象を持った。
 - データソースのブラックボックスとは、具体的にはどのような問題か。ディスカバリサービスの検索対象は Knowledge Base だが、全体像が把握できないので、何を対象に検索しているのか分からないという問題が経験的にある。CiNii Research では、検索対象が分かるようにできると望ましい。
 - 試験公開でのユーザーからのご指摘を含め、考えていければと思う。
- PubMed がリニューアルされた際に、検索結果の再現性の問題が出てきた。CiNii Research では再現性を保証できると良いかと思う。
 - 既存 CiNii は再現性の面は安定しているかと思う。CiNii Research についても引き続き維持できるように開発している。（NII）
 - 検索プロセスの透明性や再現性を保証することを意識して、システムを構築していることを発信できると、信頼性に繋がるかと思う。

5. 今後の進め方について（審議）

事務局より、資料 3 に基づき、報告があった。

6. 図書館総合展について（報告）

事務局より、資料 4 に基づき、報告があった。

7. その他

事務局より、開発中の環境を用いてデモを行い、その後、議事の 5～7 を受けて、意見交換を行った。

[主な論点]

- 11 月の図書館総合展後はオープンな公開になるのか。
 - 11 月以降は一般公開する予定である。（NII）
 - 動作検証時に NII 内部で確認し、大きな問題が発生した場合は、公開しないことになる可能性もある。（NII）
- 資料 3 の第 2 回の検討内容とされている「課題の洗い出し、整理」は、NII 関係者から上がった課題の洗い出しになるのか。また、第 2 回検討会（2020 年 10 月頃）と第 3 回検討会（2021 年 3 月頃）の間に、間があるようだが、途中で会議を挟んでも良いのではないか。

- 開催頻度や検討内容については、詰め切れていなかった。会議の追加については、柔軟に対応したい。(NII)
- 会議以外でご意見を集めるために、何らかのコミュニケーションツールを用意できれば良いのではないか。
- 試験公開と本番公開は何が異なる想定か。データ更新の運用まで行われるのか、単に機能を試してもらうのか。
 - 運用は試験公開では行わず、機能やインターフェースを見てもらい、フィードバックをもらうために公開する予定である。本番では、窓口対応や定期更新等の運用をしていきたいと思う。また、認証機能や人物情報の検索を追加していきたいと思っている。(NII)
- データの更新は4月から始めるということか。
 - 試験公開時の定期更新は予定していない。(NII)
- CiNii Research への搭載を希望している機関があった場合、連携方法の仕様はいつ頃公開されるのか。
 - 外部連携については、機関ごとに条件が異なるため、一律で仕様を決定する想定ではない。組織ごとにメール等で調整したいと考えている。(NII)
- 具体的に想定している連携先はあるのか。
 - NIMS や東京大学社会科学研究所以外では、韓国やイギリスのリポジトリとやりとりをしている。将来的にはバイオ関連のデータとも連携できればと思う。(NII)
- ユーザーからのフィードバックはどう受けるのか。
 - サイトにフォームやメールアドレスを記載し、挙がってきたものの中から、必要なものは検討会に挙げて議論できればと思っている。(NII)
- 関係性を示すデータは既に開発されているのか。
 - CiNii Research の肝になる部分だが、現状ではうまく繋げられるデータがない状態である。今年度後半以降は、名寄せ強化に注力したいと考えている。(NII)
- 論文と研究プロジェクトは結びついているのか。
 - 結びついているものもあるが件数が少ない。デモは開発中の環境なので、機能が反映されていないかもしれない。(NII)
- アクティビティログが分かると面白いのではないか。
 - 開発業者からも同じ要望が出ていたので、可能であれば、実装したいと考えている。(NII)
- 社会における CiNii Research の新たな立ち位置を作り上げていければと思う。将来的には、コミュニティを作るか、何かのコミュニティに参加していけたらと思っている。フィードバックとシステムへ反映が循環するようにし、ユーザーと共に成長していくサービスにしていきたいと考えている。
- 11月での公開を、何と呼んで、何を目的にするかをはっきりさせるべきである。ベータ版、試行版と言うと、ほぼ開発済みだが、一部未開発部分がある状態とい

う印象を持たれると思う（例：ジャパンサーチ）。CiNii Research のある生活を体験してほしいということであれば、建設的なコミュニケーションをとれるよう、はっきり目的付けをしていくことが重要だと思う。また、今回は図書館総合展で発表する予定とのことだが、主要ターゲットを研究者にしているのであれば、研究者とのコミュニケーションをどうとるかを考えていければと思う。

- 試験公開時は完成版ではないということを利用者に伝えなければとは思っているが、どう説明すれば良いかは悩ましい点である。（NII）
- 個人的には、「プレビュー」等が良いかと思う。過去に CiNii をリニューアル公開した際は、図書館員が学生用のドキュメントを作成するためという目的で本番公開の 2～3 週間前に公開していた。
- 名称と目的については、第 2 回検討会（2020 年 10 月頃）で決定できればと思う。
- CiNii Research のユーザーは一義的には研究者となるが、アンケートをとることはできるが、コミュニケーションをとるのは難しい。まずは、検索に関わっている方々に委員として検討をお願いしたが、ユーザコミュニケーションという点についても議論をしていければと思う。
 - AB テストなどの方法もある。
- 検討会の活動として、最終的な成果物を出す必要はあるか。
 - 現時点では考えていない。研究者や図書館員の視点でご意見をいただければと思う。（NII）
 - 会議の要旨は公開の扱いにしていければと思う。
- 10 月の動作確認以外の具体的な作業は想定していないという認識で良いか。
 - 資料 2-3 のスケジュール通りに進めるためには、今年度中に結論を出さなければならない案件がいくつかある。適宜議題をあげていきたいと考えている。（NII）
- 第 2 回検討会は別途日程調整があるのか。
 - 10 月中の開催を目途にご連絡させていただきたいと考えている。（NII）